

巻頭言

目次

「終戦の条件」は何だったのか

田中良則

1

◆因果は巡る

—石原と今村と武藤のこと—

野村乙二郎

2

◆南京大虐殺事件と石原莞爾

木下靖夫

4

●会員便り

植田会長を偲んで

総会のお知らせ

6

●SNS

8

宣言 (昭和31年協和会「昭和革新論」より)

- 1、人類歴史は最終戦争時代に突入し、世界の統一は眼前に迫った。われらは最小の犠牲をもって、新しい歴史を開こう。
- 2、都市解体、農工一体、簡素生活、この三原則によって新日本を建設し、搾取と戦争のない、人類次代文化の先駆となろう。
- 3、東亜に対する過去の態度を深く懺悔し、まず近隣と道義によって固く結び、ひいて永久平和の実現に邁進しよう。

「終戦の条件」は何だったのか



当会会員 田中 良則

本年一月に「終戦の条件—国体護持と無条件降伏とポツダム宣言」という本を出版しました。その内容について中心的なポイントを書かせていただきます。

日本がポツダム宣言を受諾して降伏したならば、同宣言で提示された条件は国際的約束となり、日本と連合国の双方に条件を守る義務が生じる筈であった。

ところが実際には、「日本はポツダム宣言を受諾して無条件降伏をした」と矛盾したことが言われるようになり、無条件降伏が強調された。ポツダム宣言の条件には守られなかったものがある。ポ宣言では指定する諸地点の占領であったのが、現実には連合国が日本国の領土を占領して、連合国最高司令官が実質的最高権力を獲得した。また「日本国軍隊は完全に武装を解除せられた後、各自の家庭に復帰し」とあったが、ソ連等は兵士の移送抑留強制労働を行った。日本政府はポ宣言受諾通告から降伏文書調印までの間、どのような交渉をしたか。ポ宣言受諾の通告、バーンズ回答、ポ宣言受諾の最終的通告等の文章を追って、日本と連合国の間で、どのようなやりとりが行われたかを調べてみた。

ポ宣言の受諾は聖断に随って決定されることになった。しかし連合国への受諾通告は最初の外務省案とも昭和天皇のお考えともちがうものになった。聖断では外務大臣案の「日本

天皇の国法上の地位を変更する要求を包含し居らざることの了解の下に日本政府は之を受諾す」に賛成であると言われたのだが、昭和天皇の御前会議退席後、「天皇の国法上の地位」が「天皇の国家統治の大権」に表現が替えられた。さらに、翻訳するにあたって、通告文は、ポ宣言の条件には「陛下の最高支配者としての大権」を損なうような要求はないと理解しているが、これに対する保証を求める、というような内容となった。

石原莞爾は「国体教育や政治組織などは皆、聖断信受を中心として考えられねばならない。」「制度をよくするために、凡ゆる努力を払うことは大事であるけれども、更に最も根本的なことは、制度を超越して、どのようなことがあるうとも、聖断が下ったならばそれを即時、全身を以て信受し奉ることである。」(石原莞爾著『国防論』石原莞爾全集第一巻所収)と言っていた。終戦時、国体護持を強く主張した人の多くは聖断信受を中心とすることを忘れていた。最高戦争指導会議の御前会議の結果が「聖断信受」でなかったことが、終戦を面倒なものにしたと私は考える。

東郷外務大臣は有条件降伏もしくは有条件媾和の意図をもって受諾通告文を書いたようであるが、辞職してしまつて、結局有条件ということとを連合国に対して主張することはなかった。重光外務大臣は降伏条件決定会談に責任を持たず。連合国最高司令官は日本政府の無条件降伏の立場を取る。等々。

一読をお願いする。

プロフィール 昭和24年、徳島県に生まれる。大学在学中、宮沢賢治の年表に、田中智学の『本化妙宗式目講義録』を五度読んだとの記事を見、図書館で田中智学の著書を検索し、『日蓮聖人の三大誓願』と『勅教玄義』を読み、国柱会に入会。昭和46年静岡大学理学部物理学科卒業。12年間静岡県公立高等学校教諭。昭和58年より17年間、国柱会本部職員。その後、郷里で個人学習塾経営。国柱会講師。

★SNS(ソーシャルネット
トワーキングサービス)で
の投稿記事を紹介します



橋場康之同志

今の時代こそ超国家主義が必要なのではないでしょうか。自国の利益が優先は当たり前でも、その為に他国が被害を受けても知らん顔ではないけないと思うのですが、そんな国が多い気がします。せめてアジア圏だけでも友好的になつて欲しいと思うのに中国や韓国の頑固さには呆れてしまいます。

石橋直之同志(大阪府富田林市)

日本と云う國、地域社会と云う枠組み、大切な絆、仲間意識が、今一番求められていると思います。又、それが日本の強みです。それを失くしたら、寂しいですね。

Yuko Maeda 同志(福岡県福岡市)

戦争の前線に命を虫けらのように扱うトップや利口な人達は決して行かない。

東條光さん(岐阜県岐阜市)

私は東條英機の縁戚で、戦争の悲惨さには激しく痛感しております。二度と同じ過ちを犯さないように平和の道を進めていきたいものですね。

そのためには各国との温和な外交、ソフトパワーの浸透が大事です。各々が歴史を振り返る。これだけでも平和を保てると思います。

ナポレオンは戦争定期者ではありますが、祖国を守った(本当はコルシカ島ですが)英雄と

して、今も語り継がれています。かと思いきや、画家(失念)で、ナポレオン戦争の悲惨さを描いた人がいる。やはり、時代が人を変えるんですね。そのうち、東條英機、石原莞爾の名誉挽回も伺えますでしょう。

ピーシーヒロシさん(北海道札幌市)

当時関東軍石原莞爾中将が満州国を設立したのは正解でした、今の中国東地方の民度の高さが、その証拠でしょう。石原の言うように満州国に留まり大陸に深入りしなければ、日本の戦後は変わっていたかもしれません。東條との軋轢は最期迄続き、石原が下野した事で日本陸軍の歯止めが効かなくなりました。日蓮に出家し仏門の中にか真実が見えなかったのかもしれませんが。日本陸軍参謀に石原氏が居れば戦局は随分変わったでしょう。日本の逸材の一人です。この事は小池百合子都知事の経歴を探る内に知りました。奇遇の事です。

相田公弘さん(栃木県足利市)

日本のシンドラァー杉原千畝は知ってました。

ユダヤ人を助けた軍人がいたのは聞いたことがありますでしたが、それが樋口季一郎とは知りませんでした。石原莞爾が樋口季一郎と親しかったと知りました。

坂本美喜雄さん(島根県出雲市)

韓国で反日運動がグロースアップされていることがテレビで報道されています。日本はそんな国から全ての財産を引き上げないと全部盗まれます。日本に違法滞在している韓国人等も危ないかもしれない。日本にとって援助するメリッ

トはないと思います。
西井比呂司さん(神奈川県愛甲郡)

中国は過去に文化大革命や天安門事件や、国を統制するのが得意なようです。3年前、上海旅行した時にFacebookは使えませんでした。入ってくる情報も出て行く情報も全てコントロールしているようです。

●会員様へのごお願い●

日頃より、当会へのご理解、ご協力を賜り誠にありがとうございます。
依然として当会は財政難が続いておりますが、印刷会社のやむない値上げ(製紙メーカー各社の原燃料ならびに物流費の上昇)などもあり、更に厳しい状況ではございます。大変恐れ入りますが、今年度分の会費のお振込みをよろしくお願い申し上げます。

★発行所 石原莞爾平和思想研究会

〒270-1158 千葉県我孫子市船戸1-3-15-113

石原莞爾平和思想研究会事務所内

FAX 04-7183-5591

郵便振替 00130-9-410942

発行人 仲條拓躬

編集人「永久平和」編集委員会

定価 200円(送料別)

会費(年間) 篤志会員 10000円以上

一般会員5000円、誌友会員4000円

第148号 平成31年(2019年)4月25日発行